

## 原子力人材育成ネットワークシステムの構築状況

－ネットワークシステムの試行から本格運用へ－

(独) 日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター

日野 貞己

平成22年度から3か年計画で開発を進めてきた、原子力人材育成ネットワークシステム（以下、「ネットワーク」）は、WEB環境で利用が可能な整備を完了した。同ネットワーク利用では、トップページを介して、一般サイト（公開）及び会員サイトにアクセスして情報利用が可能である。その際、データベース（原子力人材育成活動、講師人材、人材育成関連施設等）は、会員サイト内に限定して利用される。これまでに参加機関から回答を得た25機関のデータ設定が完了、利用が可能である。なお、データベースは、定期的に更新を行うため、会員自らがアップロードする機能を備えている。

本格運用に際して、同ネットワークは、設立される中核的恒常機関へ移設、運用することを想定していたが、当面、JAEAが維持、管理することとなった。JAEAはセキュリティーレベルが高く、外部アクセスが禁止されているため、新たに外部アクセスが可能なクラウド環境の確保とWEBアプリケーションの移設、整備を進めた。なお、図1に「インターネットデータセンターのクラウド環境概念」を示す。

### 1. ネットワークシステムの本格運用へ向けて（3か年の文科省補助事業の終了と自立へ向けて）

同ネットワーク事業は、平成25年度以降の本格運用へ向けて、中核的恒常機関設立までの間、クラウド環境からの利用に制限されるが、我が国の原子力人材育成活動をWEBリリースすることで、国際社会からも利用される機会が増加する。国内外の利用者から寄せられる意見・要望等を踏まえ、ホームページコンテンツ等の改善に積極的に取り組むとともに、アクセス件数増加へ向けた機能強化等を積極的に行うことが求められる。なお、教材等の利用と著作権問題では、eラーニングなど、より具体的な教育教材を提案して、開発、整備を進めることが重要となる。

### 2. 今後の展開（利用者拡大へ向けて）

- (1) 若手研究者、大学生・高専生等の利用向上へ向け、会員登録を積極的に推進。
- (2) ネットワークサービス（原子力関連教材、分科会・事務局連携等）の整備・強化の推進
- (3) ソーシャルネットワーキングサービスの普及・利用率の向上

図1 インターネットデータセンターのクラウド環境概念（～平成25年3月迄）

